

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
目的: 子どもの健康の保持・増進、成長・発達を促すための基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 子どもの成長・発達に応じた日常生活援助の方法を理解し、基本技術ができる。 2 子どものアセスメントに必要な技術を理解し、基本技術ができる。 3 子どもの診療に伴う看護技術および発達段階に応じた援助方法が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 子どもの日常生活援助	4	1 子どもの日常生活援助の基本 1) 発達段階に即したセルフケアの支援 2 小児各期の日常生活援助技術 1) 乳児期 (1) 調乳方法と授乳の仕方 ※1 (2) おむつの種類・着脱方法 ※1 2) 幼児期 (1) トイレトレーニング (2) 衣類の着脱の仕方 3) 学童期・思春期・青年期 (1) 学習支援 (2) 健康教育	
2 子どものヘルスアセスメント	4	1 アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション 2) 身体測定 3) バイタルサイン測定 4) ヘルスアセスメント (1) 観察の基本技法(問診・視診・聴診・触診) (2) 呼吸のアセスメント (3) 循環器系のアセスメント (4) 腹部のアセスメント (5) 筋・骨格系のアセスメント	
3 子どもの診療に伴う看護技術	6	1 検査・処置を受ける子ども 1) 子どもにとっての検査・処置 2) 発達段階に応じたプリパレーション 2 検査・処置に伴う看護の実際 1) 与薬 (1) 薬剤の形状・年齢に応じた与え方 (2) 注射 (3) 持続輸液管理法(固定・滴数調整) 2) 検体採取と援助 (1) 採血 (2) 採尿、便採取 (3) 骨髄穿刺 ※2 (4) 腰椎穿刺 ※2 3) 抑制 4) 酸素療法 ※2 5) 吸入療法(排痰、吸引も含む)	
	1	試験	

評価方法	筆記試験、参加状況・態度等
テキスト	医学書院 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論 インターメディカ 写真でわかる小児看護技術アドバンス
参考資料	医学書院 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的に参加し、技術習得に努めること。
備 考	※1は演習を行う。 ※2は演示

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 健康障害や症状・経過に応じた子どもの看護を実践するための基礎的能力を養う。 目標: 1 子どもの健康障害の特徴と環境や状況に応じた子どもと家族への看護を理解できる。 2 主な症状や健康障害をもつ子どもの看護を理解できる。 3 子どもの看護の特徴を踏まえた、看護の展開を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 子どもを取り巻く環境や状況における看護	10	1 子どもの健康障害と看護の特徴 2 健康障害により子どもと家族に起こる精神・社会的影響 3 子どもの入院とその影響 1) 入院環境 2) 入院が子どもと家族に及ぼす影響 3) 入院している子どもと家族の看護 (1) 意思決定支援 (2) 事故防止 (3) 遊び・学習の援助 (4) 専門職連携 (5) きょうだい・家族への支援 4 外来における子どもと家族の看護 5 疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 4) 終末期にある子どもと家族の看護 6 継続看護の実際 1) 家族との連携 2) 保育所・学校との連携 3) 地域(外来も含む)との連携 7 障害のある子どもと家族の看護 1) 障害のとらえ方、家族の特徴 2) 心身障害の定義と種類 3) 医療的ケアを必要とする子どもと家族 4) 発達障害のある子どもと家族 5) 社会的支援 8 災害時の子どもと家族の看護 1) 被災地の環境と看護の役割 2) 災害時の子どもと家族の援助 9 子どもの虐待と看護 1) リスク要因と発生予防・早期発見 2) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 3) 求められる援助	
2 健康障害をもつ子どもの看護	11	1 主な症状に応じた子どもの看護 1) 発熱、痛み、発疹、嘔吐・下痢、脱水、浮腫、呼吸困難・チアノーゼ、けいれん・意識障害 2 主な健康障害における子どもと家族の看護 1) 活動制限が必要な子どもと家族 (1) 排泄機能の障害; ネフローゼ症候群、急性腎炎	

		(2) 運動機能の障害;骨折、ギプス固定 2) 隔離が必要な子どもと家族 (1) 感染症;麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、髄膜炎 (2) 悪性新生物;白血病 3) 先天的な問題をもつ子どもと家族 (1) 染色体異常;ダウン症 (2) 循環機能の障害;先天性心疾患 4) 手術を受ける子どもと家族 (1) 消化機能の障害;胆道閉鎖症、ヒルシュスプルング病 5) 急性期にある子どもと家族 (1) 川崎病、気管支炎・肺炎 6) 慢性期にある子どもと看護 (1) 代謝機能の障害;糖尿病 (2) 免疫機能の障害;気管支喘息、食物アレルギー 3 けいれんのある子どもと家族の看護 4 脳性麻痺の子どもと家族の看護
3 健康障害を持つ子どもの看護過程	8	1 子どもの看護過程の展開の特徴 1) 小児看護の目標と役割 2) 家族支援 2 事例をもとにした看護の展開 ※1 1) 発達段階を踏まえたアセスメントの視点 2) 初期把握と状況の解釈 3) 成長発達を促す援助計画
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート課題	
テキスト	医学書院 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児看護学2 小児臨床看護各論	
参考資料	メディックメディア 看護がみえる vol5 対象の理解 I	
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考	※1は演習を行う。	